

登録コード	L1133600	開講年度	2026				
担当教員	三谷 尚澄			副担当			
授業科目	哲学・思想論特論						
英文授業名	Phi losophy						
授業タイトル	西洋思想特殊講義						
単位数	2	対象学生		講義期間	後期	曜日・時限	金曜・4 時限
講義室	人文第 1 講義室	遠隔授業科目		読替科目	読替科目は履修案内を確認すること		
信大コンピテンシー	該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素			【授業の達成目標】			
	2 0 2 2 Lカリ, 2 0 2 1 Lカリ						
	【2022年度以前加付対象】自明とされる事柄に対し、深くその根拠を問い直し新たな認識を構築できる思索力			・ 代表的な哲学の問題と真剣に向き合うことを通じて、常識的思考が陥りがちな硬直状態を抜け出し、虚心にことの真相を突きとめようとする視点・態度を獲得する。 ・ 代表的な哲学の問題を批判的に検討することを通じて、他者の受け売りではない自分独自の思考を練り上げることができるようになる。			
	【2022年度以前加付対象】過去の英知の批判的継承のうえに立って創造的な未来を切り拓く開拓力			・ 概念史的背景、事柄に即した論理的・批判的思考等を通じて、さまざまな哲学的問題に対してより奥行きの高いしかたでアプローチし、総合的に吟味・検討する能力を習得する。 ・ レポートの作成を通じて、読み解いた内容を自分なりに噛み砕き、他人に理解できる言葉で明瞭に整理して伝達する能力を習得する。			
	2 0 2 6 Lカリ, 2 0 2 5 Lカリ, 2 0 2 4 Lカリ, 2 0 2 3 Lカリ						
	【2023年度以降加付対象】人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身についている。 【思索力・受容力・批判力】			・ 代表的な哲学の問題と真剣に向き合うことを通じて、常識的思考が陥りがちな硬直状態を抜け出し、虚心にことの真相を突きとめようとする視点・態度を獲得する。 ・ 代表的な哲学の問題を批判的に検討することを通じて、他者の受け売りではない自分独自の思考を練り上げることができるようになる。			
	【2023年度以降加付対象】専門的学力を基盤とし、持続可能な社会を実現するための課題に取り組む力が身についている。 【開拓力・企画発想能力】			・ 概念史的背景、事柄に即した論理的・批判的思考等を通じて、さまざまな哲学的問題に対してより奥行きの高いしかたでアプローチし、総合的に吟味・検討する能力を習得する。 ・ レポートの作成を通じて、読み解いた内容を自分なりに噛み砕き、他人に理解できる言葉で明瞭に整理して伝達する能力を習得する。			
授業で学べる「テーマ」	キャリア						
全学横断特別教育プログラム							
授業の概要	「わたしたちの日常的な生」と「アート」と「哲学」。これら三者のあいだには、どのような関係が成り立っているのだろうか。「哲学」や「アート」がもつ独特の力——「わたしたちの生に変容をもたらし、解放する力」——に焦点をあわせつつ、「生」と「哲学」と「アート」のあいだに成り立っている、「分かたつことのできない、もつれあった関係」のありようを明らかにすること。このことがこの授業の目的である。 今年度は、とくに、この問題を主題的に扱ったアルヴァ・ノエ——現代英米圏における心の哲学を代表する論者であると同時に、近年は美学やアートをテーマとした注目すべき業績を矢継ぎ早に公表していることでもその名を知られる哲学者である——の著作を題材に、上記のテーマに関するサーベイと検討を行う。						
授業計画	第 1 回：ガイダンス 第 2 回：Art in Mind 第 3 回：Domestic Entanglements 第 4 回：Dance Incorporate 第 5 回：Styles of Seeing 第 6 回：The Writerly Attitude 第 7 回：The Aesthetic Predicament 第 8 回：Fragile Bodies 第 9 回：Existential Style 第10回：Toward an Aesthetics for the Entanglement 第11回：Reorienting Ourselves 第12回：The Seepage Problem 第13回：Nature after Art 第14回：まとめと展望（ 1 ） 第15回：まとめと展望（ 2 ） / 授業アンケート						
成績評価の方法	授業で解説された哲学的諸問題に関する適切な理解がなされているかについて、学期中のプロトコル報告（もしくはレポート）と学期末レポートの結果をあわせて総合的に評価する。（前者が3割、後者が7割。）						
成績評価の基準	教員の提示するレポート課題に対し、(i)適切なまとめと建設的かつ説得的な論点が記述できていれば「卓越している」。(ii)適切なまとめと説得的な論点が記述できていれば「かなり上にある」。(iii)整合的なまとめと充分に妥当な論点が記述できていれば「やや上にある」。(iv)瑕疵のないまとめと妥当性の						

成績評価の基準	認められる論点が記述されていれば「水準にある」。
事前事後学習の内容	課題資料を熟読し、毎回の授業内容の理解に努める。また、授業で扱われたテーマに関して、受講生同士での自発的な議論を行い、発展的な論点の発掘を心がける。
履修上の注意	講義課目であるが、配布されるプリントを授業外の時間においてもみずから繰り返し読み、考える、という態度が受講者には要求される。また、各回の授業のはじめに、先回の授業内容を、担当者が受講生全体に向けて解説するプロトコル報告の時間を設ける。成績評価の対象となるので、しっかり取り組むこと。
質問、相談への対応	オフィスアワー（火曜12時15分～13時15分）を通じて対応する。
教科書	授業中に指示する。
参考書	Alva Noe, "The Entanglement--how art and philosophy make us what we are", Princeton U.P., 2023.